



ズワイガニ（北海道西部系群）

①

ズワイガニは日本以北の海域に広く生息しており、本評価群はこのうち北海道西部日本海に分布する。本系群の漁獲量等の数値は漁期年（7月～翌年6月）を示す。

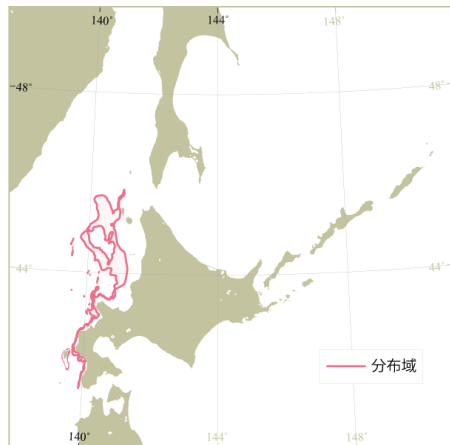


図1 分布図

本資源では積丹海山群、忍路海山、および武蔵堆斜面域に漁場が形成される。

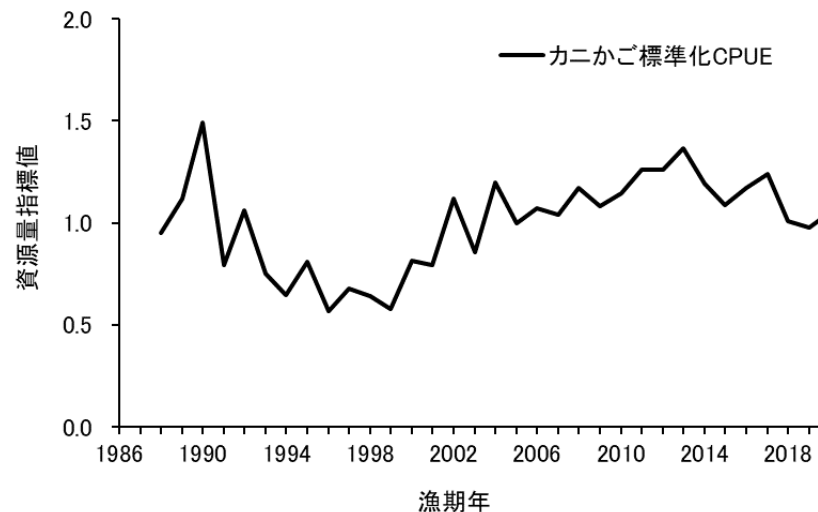


図3 資源量指標値の推移

主にずわいがにかご漁業（カニかご漁業）で漁獲され、現在は3隻が、カニかご漁業の知事許可を得ている。漁獲量は、1986年は80トンを超えていたが、その後減少し、1988年以降は10～40トン程度で推移しており、2020年は6トン（カニかご漁業：6トン、その他刺網等：0トン）であった。

カニかご標準化CPUE（資源量指標値）は、1980年代末から1990年代後半にかけて低下した後は上昇して、現在は比較的高い水準を維持している。

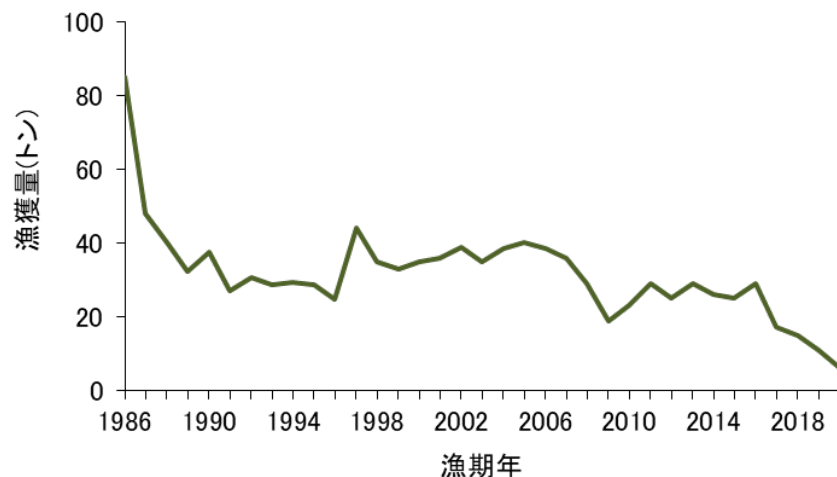


図2 漁獲量の推移

ズワイガニ（北海道西部系群）

②

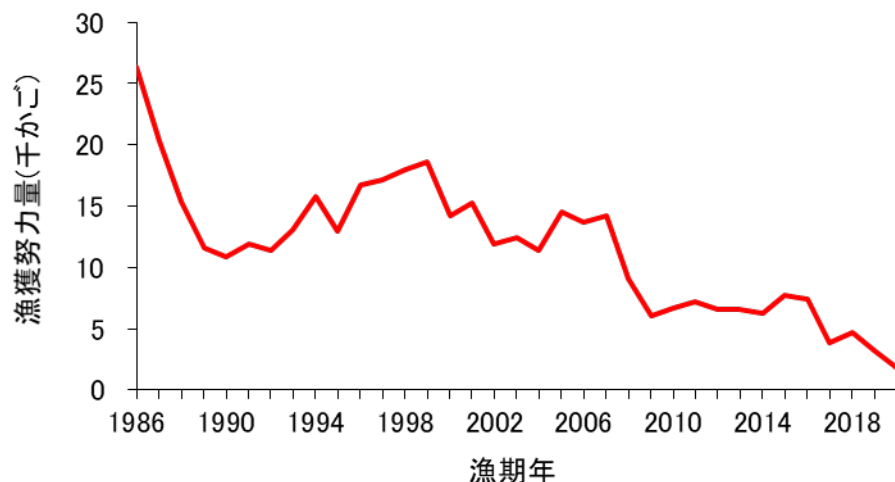


図4 漁獲努力量の推移

漁獲努力量は2000～2008年には9,000～15,000カゴ程度で横ばいであったが、2009年以降は6,000～8,000カゴと少なく、2017～2020年には荒天の影響もあり、2,000～5,000カゴとさらに減少した。

本資源の漁獲シナリオでは、1997年以降の資源水準を維持するよう漁獲を管理することとされ、維持または回復させるべき目標は、資源量指標値が1.0付近であることとされている。2020年の資源量指標値（1.05）は、この目標を上回った。

本資源の漁獲シナリオについて

本資源の資源量指標値はカニかご漁船の主対象であるベニズワイガニの漁獲状況や、ズワイガニの単価、かごの沈設日数など、CPUEに影響する要因を考慮できておらず、最大持続生産量に関する目標管理基準値や限界管理基準値を定めることは困難である。

本資源の漁獲シナリオでは、1997年以降の資源水準を維持するよう漁獲を管理し、資源管理の目標の達成状況を踏まえ、必要に応じてこれを見直すこととされている。

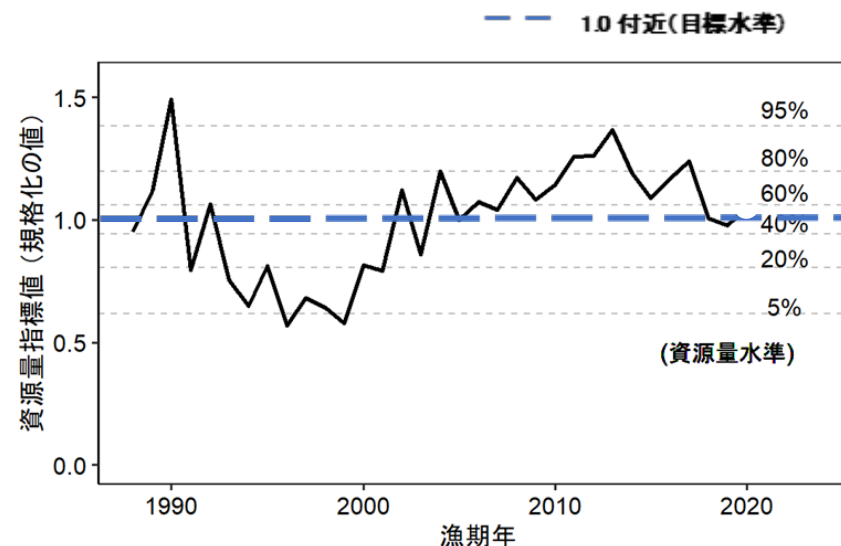


図5 資源量指標値と目標とされる水準